第47回日本小児眼科学会総会

モーニングセミナー

知っておきたい 小児の全身麻酔下手術と検査

日時 2022年3月20日(日) 8:30〜9:30

会場 第1会場 日本教育会館 一ツ橋ホール

東京都千代田区一ツ橋2-6-2

座長のことば

小児眼科領域では内眼・外眼手術のみならず、眼底疾患などの精密検査にもしばしば全身麻酔を要する。重篤な眼疾患は、特に未熟児や染色体異常、全身症候群の小児に起こる頻度が高いため、全身麻酔の可否や周術期の管理に苦慮することが多い。安全に検査や手術を遂行するためには、麻酔科医や小児科医との連携が不可欠である。

本セミナーでは、国立成育医療研究センターでご活躍中の２名の先生方にご登壇いただき、はじめに眼科の林思音先生から全身麻酔下検査の実際をご紹介いただく。次に、小児麻酔の指導者である糟谷周吾先生に、我々眼科医が知っておくべき小児全身麻酔の注意点を詳しくご講義いただく。

本会において、麻酔科の先生から直接お話を伺えるのは初めてで、またとない貴重な機会である。皆様、是非ご参集のうえ、有意義な朝時間を過ごして頂きたい。

座長

仁科 幸子 先生

国立成育医療研究センター
眼科診療部長

講演 1

小児の全身麻酔下検査

演者

林 思音 先生

国立成育医療研究センター 眼科

講演 2

小児全身麻酔の注意点

演者

糟谷 周吾 先生

国立成育医療研究センター 麻酔科

共催：株式会社オグラ　オグラ眼鏡店　こどもメガネアンファン

知っておきたい 小児の全身麻酔下手術と検査

講演 1

小児の全身麻酔下検査

演者 林 思音 先生
国立成育医療研究センター 眼科

小児の診察では、機器を近づけての検査や長時間の安静が必要な検査では、協力が得にくい場合、鎮静を要することがある。また、なるべく鎮静を行わないためにさまざまな工夫を講じていても、網膜芽細胞腫や網膜剥離をきたしやすい家族性滲出性硝子体網膜症などは病変の活動性評価のため網膜周辺部までの詳細な検査が必要であり、全身麻酔下検査は避けられない。一方、全身麻酔下検査は、全身へのリスクがあること、手術枠の確保が難しいことから、検査そのものをためらうことも多いと推察する。

当院は小児科専門病院という特性上、比較的全身麻酔下検査を行う機会が多い。そこで、当院で全身麻酔下検査を実施した症例をご紹介し、検査の適応、利点、注意点について検討したい。先生方の日々の診療の一助になれば幸いである。

講演 2

小児麻酔の注意点

演者 糟谷 周吾 先生
国立成育医療研究センター 麻酔科

小児では手術に加えて検査においても全身麻酔が実施される事が多い。麻酔薬や医療機器等の進歩により小児を含む全年齢層で手術室における全身麻酔の安全性は向上してきた。その一方で鎮静下の管理や、手術室外の麻酔では、担当者や医療機器を含む体制整備の不足もあり、改善の余地が残ると思われる。体軀の小さい小児では麻酔管理上いくつかの配慮が必要である。私は麻酔科医として手術室においては、円滑な麻酔導入と覚醒、確実な気道確保、換気と酸素化・充分な麻酔深度の維持、痛みの少ない術後管理への移行などを心がけている。また稀に遭遇する問題として、上気道感染に伴う呼吸状態の悪化、薬剤によるアナフィラキシー、術中の気管チューブの屈曲や計画外抜管、術後の無呼吸や気道閉塞などに注意している。ここでは全身麻酔の概説と共に、近年の周術期管理をめぐる変化の中から、小児の眼科の全身麻酔に関連する事項として、術前の絶飲時間の短縮、局所麻酔を含めた多角的鎮痛の実施、麻酔からの覚醒時せん妄（興奮）の対応、術後鎮痛、術後嘔気嘔吐への対策などについて解説を加える。